

国際シンポ 本学3教員が成果発表**南部教授 在宅医療に向けた教育の必要性訴え**

日本、韓国、タイ、フィリピンの医療・福祉系5大学による国際シンポジウムThe 8th Allied Health Sciences International Symposium (AHSIS) が1日(金)、オンラインで開催され、本学からは4人の教員が研究発表などを行いました。

コンケン大学(タイ)が主管大学となった今回シンポのテーマは「教育改革(Transformative Education)」。同大学のマイツリー・インプラシタ副学長による基調講演に続いて行われた全体会議では、本学の南部雅美教授(医学検査学科)が、少子高齢化が進む中、在宅医療に向けた臨床検査技師の教育の必要性を提起しました。

臨床検査、看護、リハビリテーションの領域に分かれた分科会も実施。本学関係では、医学検査学科の青木学教授が座長を務めた臨床検査領域で、同学科の立石多貴子准教授が、臨床検査室で実施可能な検査試薬の頑健性評価に関する研究成果を披露しました。また、看護領域では看護学科の甲斐村美智子講師が母親の養育態度と幼児の睡眠習慣との関係について、リハビリテーション領域ではリハビリテーション学科言語聴覚学専攻の井崎基博准教授が新たな吃音治療法リッカムプログラムのオンライン実施に関する効果検証について発表しました。いずれも事前録画された発表を流し、その後オンラインで質疑に応じる形式でしたが、参加者たちとの間で活発な質疑応答が交わされました。

次の国際シンポジウム主管校は大邱保健大学(韓国)で、来年5月に開催予定です。(入試・広報課)



南部 雅美教授



立石 多貴子准教授



甲斐村 美智子講師



井崎 基博准教授

<臨床検査領域>

立石多貴子准教授：A study of assessment items for robustness on performing serum calcium assays in clinical laboratories as a model case.

<看護領域>

甲斐村美智子講師：Association of maternal child-rearing attitude with the behavior of putting infants to sleep and the sleeping habits of infants.

<リハビリテーション領域>

井崎基博准教授：Online speech therapy for children with stuttering.

本学発表者と演題

学修成果の可視化、学生参画型の授業づくり...**ベネッセ情報誌で本学取り組み紹介「Between」12月号**

ベネッセコーポレーション・ベネッセ i-キャリア・進研アドが発行する高等教育情報誌「Between」12月号(310号)に、本学が取り組む学修成果の可視化や学生参画型の授業づくりなどが紹介されました。9月29日(金)に同社担当者が来学し、竹屋元裕学長をはじめ関係者を取材しました。

12月号のテーマは「学修者本位の大学のつくり

方」。本学や上智大学、茨城大学など7大学の取り組みが、各種アンケート結果と共に紹介されています。見開き2ページにわたる本学のコーナーでは、竹屋元裕学長へのインタビューや、アカデミックスキル支援センターの学生指導員の活動内容などが盛り込まれています。

(入試・広報課)

※「Between」12月号は以下のURLから見るができます。

<https://between.shinken-ad.co.jp/between/2023/11/2023no310.html>

小学生アスリートの能力測定

「走る・投げる・跳ぶ」テーマに天草市で

天草市の小学生アスリートを対象とした運動能力測定会を11月19日（日）、天草市の「あましんスタジアム」で行いました。5月に本学と同市が締結した包括連携協定に基づくフィジカルフィットネス事業（天草市スポーツコミッション主催）の一環です。

この日スタジアムで開かれた陸上教室の参加者や市スポーツコミッションの呼び掛けに応じた小学4～6年生計12人が参加。松原誠仁副センター長とセンター事務の中村祐貴さん、リハビリテーション学科理学療法学専攻1年次生8人と大学院生2人が、「走る・投げる・跳ぶ」をテーマに50m走やメディシンボール投げ、立ち3段跳びなど8項目を測定しました。また、天草工業高校陸上競技部の部員24人も測定に協力してくれました。

松原副センター長は「今回の測定会では、自らの能力を可視化する事にチャレンジし、非常に良い手ごたえを感じました。小学生を対象に（測定会を）経験できたことは、今後の活動に良い影響を及ぼすと考えています。参加してくれた理学療法学専攻の1年生は、非常に意識が高く今後の活躍が期待できます。」と話していました。

（入試・広報課）



立ち3段跳びに挑戦する小学生

高校生と協力 高齢者の体力測定

阿蘇プロジェクト

阿蘇市在住の高齢者を対象とした体力測定会が11月15日（水）、同市一の宮町の阿蘇中央高校であり、本学リハビリテーション学科の学生41人と同校生徒55人が協力し、聞き取りや測定を行いました。

2月に本学と阿蘇市、阿蘇中央高校の3者で締結した包括連携協定（阿蘇プロジェクト）の一環。6月に1回目の測定会を実施し、今回が2回目となります。前回測定した65歳以上の男女25人が参加しました。

測定は「運動」関連を理学療法学専攻、「食事」関連を言語聴覚学専攻、「社会参加」関連を生活機能療法学専攻が担当。学生と生徒が協力し、歩行速度、摂食嚥下機能、骨密度など計29項目にわたる測定を手際よく進めていました。

11月15日に阿蘇市で、2回の測定結果の報告会が開かれる予定です。（入試・広報課）



測定にあたるオレンジ色ジャンパーの本学学生と黒ジャージ姿の高校生

目標達成へ「チャレンジ熊保大！」

大手予備校講師が受験対策講座

本学の一般選抜を希望する高校生に向けた恒例の「チャレンジ熊保大！一般選抜対策講座」が3日（日）、50周年記念館であり、生徒、保護者計173人が参加しました。

熊本市の大手予備校「壺溪塾」の講師陣が、本学の英語・国語・数学・理科（物理・化学・生物）・小論文の過去問をもとに受験対策について解説。保護者には本学概要や入試、奨学金制度の説明会、施設見学などのプログラムが用意されました。

8月のオープンキャンパスにも参加したというある生徒は「重要な点を解説してもらえるので、助かります」と話していました。

（入試・広報課）



国語の講座を受ける高校生たち

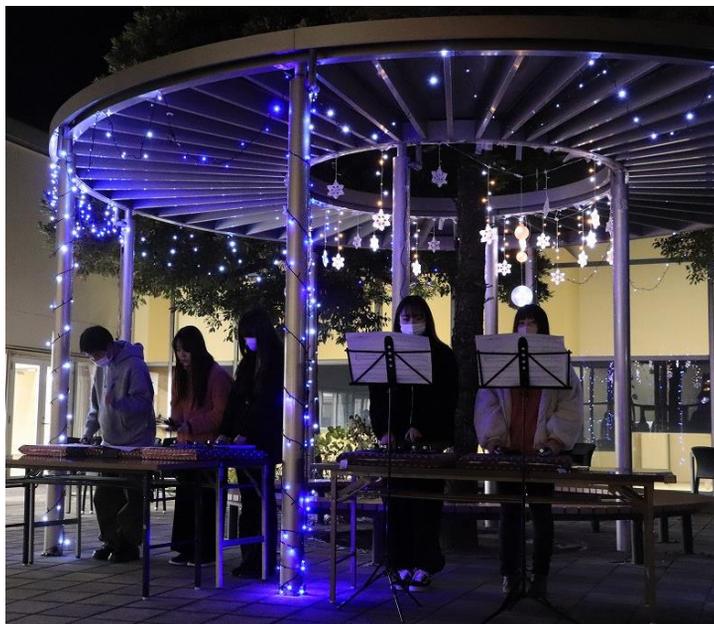
光の造形 聖夜を演出

学友会によるクリスマスイルミネーションの点灯式が4日（月）、キャンパススクエアであり、学生や教職員が見守る中、イルミネーションに明かりが灯されました。

学友会執行部の呼びかけで、11月27日（月）から毎日10～20人の学友会員が交代で準備してきました。

点灯式では、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻2年松崎紗奈さんの号令で明かりが灯されました。5人の学生がトーンチャイムで「赤鼻のトナカイ」を演奏。集まった学生たちは、暗闇に浮かぶ幻想的な光の造形を楽しみながら、優しい音色にうっとりとして聴き入っていました。クリスマスイルミネーションは25日まで点灯されます。（入試・広報課）

クリスマスイルミネーション点灯



優しい光に包まれてトーンチャイムを演奏する学生たち

銀杏アラカルト



青空の下でプレーを楽しむ参加者たち

■青空の下 ナイスショット!

西里校区グラウンドゴルフ大会が11月23日（木）、本学グラウンドで行われ、学生、職員計22人が、西里校区グラウンドゴルフ協会の121人と共にプレーを楽しみました。

グラウンドゴルフは専用の木製クラブでボールを打ち、スタートからホールポストまでの打数の少なさを競うゲームです。8ホールを2ラウンド行います。見事ホールインワンが出れば合計打数から3引くことができ、負けていても逆転することが可能です。

この日は、成績上位者に賞品が贈られ、表彰式は大いに盛り上がりました。本学での大会は毎年春と秋の2回開催されています。興味のある方はぜひご参加ください。

（地域連携委員会）

インフォメーション

週間行事予定（12月12日～18日）

12 / 15（金）

学園忘年会